

令和6年度 たつの市まち未来創生戦略推進委員会

日 時：令和6年11月14日（木）

午前10時～午前11時半

場 所：たつの市役所災害対策本部(兼)大会議室

出席者：委員15名、事務局

1 開 会

2 協議・報告事項

- (1) 地方創生10年の振り返りについて
- (2) たつの市の現状について
- (3) 「たつの市まち未来創生戦略」の基本目標・施策の検証及び評価について
- (4) まち未来創生戦略の主な取組について
- (5) 国の認定を受け進める本市の創生戦略事業について

3 意見交換

4 閉会

ー市長挨拶ー

本日は、公私ともご多用のところ、ご臨席賜り誠にありがとうございます。先日開催しました「第17回たつの市民まつり」では、市内外から約5万人の方々にお越しいただき、活気と賑わい溢れる一日となりました。改めて、市民が主役のまちづくりへの思いを、より一層強くしたところでございます。

さて、本年は地方創生の取組が始まり10年の節目を迎えます。その間、本市では「まち未来創生戦略」のもと、未来に誇れるまちを目指し、子育て支援、雇用創出をはじめ様々な施策を進めて参りました。本日御出席の委員の皆様には、様々な分野から「未来応援住みたいまちたつの」の実現に向け、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

ー委員長挨拶ー

皆様おはようございます。兵庫県立大学の草薙でございます。高坂誠学長から委員を引継ぎまして2年目となりました。

さて、兵庫県立大学は本年20周年を迎えまして、たつの市は来年が20周年ということで同じような形かと思えます。今月17日に20周年を記念したイベントを予定しており、山本市長にもお越しいただくこととなっております。遠路お越しくださりありがとうございます。また、20周年の記念誌「県立大学の歩み」もホームページで閲覧できますので、是非ご覧ください。

20歳と言いますとそろそろ独り立ちして頑張れよと言われる時期でございまして、まさに頑張らなければならないと思っております。どうぞご指導ご鞭撻よろしくお願いいたします。

－会議要旨－

事務局より、取組状況等の説明を行い、主な意見等の要旨は次のとおり	
協議・報告事項 (1) 地方創生10年の振り返りについて (2) たつの市の現状について (3) 「たつの市まち未来創生戦略」の基本目標・施策の検証及び評価について	
委員長	資料1から3をご覧くださいまして、人口減少の具体的な課題が記載されていると思います。また、厳しいところではありますが過去のことをしっかりと振り返って総括し、今後の未来に向かっての取組も記載されております。ここまでの所でどんなことでも結構ですので、ご自由にご発言をいただきたいと思います。新しい委員の方々もおられますので、まずはこれまで委員を務められた方々からご発言をいただき、その後に新しい委員の方々をお願いしたいと思います。 今日の資料をご覧ください、どのようなことをお感じになったか、どんなことでも結構ですので、お願いしたいと思います。
委員	人口に関しては、たつの市に限らず日本全体が減っていくのだろうという予測が出ています。よく食品メーカーの方がおっしゃるのが、人の胃袋の数がこれ以上増えることは無いということで、今後どのような仕組みをつくるかを考えていく必要があるという話をよく聞きます。 2点目に私たちの業界で言いますと、観光、産業という視点で西播磨県民局に取材をさせていただくことが多く、西播磨というエリアは非常に広大で、他のエリアと比べますと中心がどこかという、たつの市になると思っています。 人口が減っていく中で移住者も増やさなければならない、少子化対策もしなければならない状況ですが、日本有数の観光地という捉え方をしていくと、たつの市には皮革産業があり、また、三木露風賞新しい童謡コンクールが40年近く開催されるなど童謡というものが、もの凄い魅力のあるところだと思います。 他の自治体で見ると、信楽焼きのまち甲賀市は人口約9万人ほどですが、信楽焼きや信楽高原鐵道でまちをPRしており、まち全体が活性化していると見ております。 たつの市は遠くからでも来てみたいと思える場所だと思いますので、我々としても皆さんと一緒に盛り上げていかなければならないと思っています。例えばアウトレットのようなもので産業をアピールしたり、宿泊ができる道の駅が市内の中心部にできたりすれば、益々魅力が増してくると思いますので、我々としても出来る限りのPRをさせていただきながら協力していきたいと思っています。
委員長	ありがとうございました。信楽焼など県外のことまで目配りをしながら、ちゃんとこれからのことも考えていただいて本当に参考となります。続きまして、よろしく願いいたします。
委員	人口減少については、自然減に対して立ち向かうには中々難しいという中で、社会増にどのように取り組んでおられるかということで、たつの市では早い段階から色々な取組を進められておられます。本日紹介もございましたが、資料2ページの人口推移の関係では実人口（住民基本台帳人口）が社人研推計から上振れており、これは非常に良いことだと思います。こういうことが人口ビジョンに生

	きてくると思います。この上振れしている理由をお聞かせいただきたいと思います。 併せて、社会増ということになりますと雇用の話かと思えます。資料10ページの施策2企業誘致の目標である新規市内立地企業数（累計）がA判定となっており、これも中々素晴らしい取組の成果だと思っております。この立地企業数に伴う雇用創出の効果というものが、いかほどなのか教えていただきたいと思います。 この播磨の各地域は人手不足で、私共も女性の雇用、高齢者の雇用に取り組んでいるところです。雇用無しには人口という話ができないと思っておりますので、そのあたりを少し教えていただけたらと思います。 いずれにせよ、この戦略に基づいてしっかりと成果を出していただいているという点は大きな評価をさせていただきたいと思えます。
委員長	ありがとうございます。重要な御質問をいただきました。まず、資料2ページのところです。国が推計する人口よりも上振れているというところ、これはもう大変注目すべきことでございます。このための雇用というところもお伺いいただいている。そして女性の活躍というところまで目配りがなされているという御示唆でございます。それでは、大変重要な御質問ですので、事務局からお答えをいただけたらと思います。
事務局	人口につきましては、説明させていただいたとおり出生数が400人を割り込んでおり本当に危機的な状況であるものの、社人研推計よりも上振れているということで、資料5ページをご覧ください。たつの市の強みとしましては、30歳代から40歳代までのこの間の人口というものが割と伸びております。理由といたしましては、本竜野駅周辺地区（小宅地区）で人口が伸びておりまして、住宅の開発が割と進んでいるところです。併せまして、定住促進住宅取得支援事業として若者や転入された方に補助金を交付することで一定の効果が出ているものと考えております。こういう強みを引き続き生かしながら、今後10年に向かって参りたいと考えております。 続きまして、雇用創出の効果につきましては、はっきりとした回答を持ち合わせておりませんが、新規市内立地企業数は令和8年度目標値9社に対し、令和5年度実績値で既に12社と目標を達成しております。しかしながら、令和4年度から増加していない状況であり、やはりこの辺りが今後の課題かと考えております。商業地の創設や、企業を誘致できるような場所が無いか本年度から調査を行っているところです。また、従業員が増えたことで人口の社会増に繋がっているかといった関連性というところまでは、現時点で分析できておりませんが、立地企業を増やす、働き場所を確保するというのが、まずもって本市にとって重要なことと認識しているところです。
委員長	ありがとうございます。やはり、雇用ということにつきまして、本当に重要だということでございます。 今のやりとりも踏まえて、何かございますか。
委員	全体的な流れで見ますと企業誘致はされているようですが、ハローワークの求人としては、やはり減少しています。減少している要因が色々ございまして、紹介事業をハローワークだけがしていたものが、民間企業にどんどん移行しているようなこともございますので、一概に全体の求人が減っているとは言い切れませ

	んが、当所で扱っているものだけを見ますと、やはり数的には減ってきております。 どうしても人口減少という話になるとネガティブな話ばかりになることが多いですが、私からポジティブな情報としてお話しますと、新規の高校卒業の方の就職希望というものがずっと減少傾向にありましたが、今年度は途中経過で久しぶりにこの現象が止まっており、就職希望者が若干ですが増加しています。 やはり地元企業に就職していただくことが、人口減少には一番効果的なことになるのかなと思います。高卒で就職を希望されている方の就職先はかなり決まってきましたが、遠くの企業に就職されると定住されませんので、この方たちを何とか地元の企業に就職いただくことが必要かと思います。私自身、阪神間での勤務が長く、4月以降何件かの会社に訪問させていただきましたが、やはりしっかりした会社が結構あります。そのようなことを新規の高校生の方は、地元企業の情報をどこまで知っているかという、まだはっきり分かっておられない方が多いと思います。 その辺りを各機関の方と協力し、若い方に企業の魅力をしっかり発信することで、就職を希望されている方が、できるだけ地元で就職できる方法を考えていくことも今後に向けて大事なことになってくるのかなと思います。
委員長	貴重な情報ありがとうございました。ちょうど就職が決まる時期でもございます。11月の半ば、これはもう中高もそうでしょうし、大学もそうですね、就職が決まっていない学生もまだおりますが、今頑張って就職活動をしておられます。そういう状況にあって、今本当に明るいニュースでございました。 実地のデータをもとに御説明頂くと光が見えるなという気がしました。 どなたからでも結構でございますので御自由に御発言頂きたいと思います。いかがでしょうか。
委員	まず、先ほどの話に関連したことを申します。たつの市に本社のある上場企業が3社ございます。A社はもう随分前からです。そして今から6年前にB社とC社の2社が加わって3社になっております。そういうことで、知名度の向上と併せて優秀な人材の獲得ということに動いてきたわけですが、実は、昨年から高卒の採用が極めて難しい状況となっております。 実は、本年から龍野北高校の評議員に加えていただきまして現状をよく伺っておりますと、ある程度要因が分かってきました。龍野北高校の校区が広がり、たつの市以外の地域から来る人が増えてきて、つまり姫路など東の方からの生徒が増えてきたということで、彼らは最初から就職を自分の住まいよりも、西の方であまり考えていない。最初から姫路以東で考えているというような在校生の出身地域の違いが出ています。大学進学も先ほど話がありましたが、大学へ進学する学生がある程度増え、より広いエリアから在學生が増えることによって結局、本来の地元でなかなか働いてもらえない、そんな状況があるということが分かりました。 県立大学にも機会があるごとにお話ししておりますが、西を向いてくださいとお願いしております。姫路工業大学時代は、そうは言ってもたつの市と近いので、卒業生の方が結構来ていただいておりますが、名前が県立大学になり、神戸が拠点ということになりましたら、やはり皆さん、東を向かれる。何とか西に向かせていくための魅力づくりというのが、この会議の目的ではないのかなと

	思います。 それでは続けてお話ししますと、この魅力は本市にはあると思っております、特に産業振興あるいは雇用創生の立場で言いますと、非常に特殊でユニークな位置にあると思います。 まず、地場産業では何十年も前と大昔から事業を営んでいる企業があります。2つ目に、大企業の龍野工場や播磨工場が数多く立地しています。3つ目に、新日鉄やIHIの御膝元として、メッキや溶接、機械加工、組立て加工など、きらりと光る技術を持った会社がたくさん点在しています。今はその両者に頼るだけではやっていけないということで、その得意技を生かして多角化されています。 大きく3つの産業の強み、①地場産業②大企業のお膝元③きらりと光る技術の3者の力を合わせていけば、力もさらに広がり、実力もつき、雇用創生に繋がると思います。商工会議所では昨年4月に県立大学との間で連携協定を結ばせていただき、3者のコーディネーター役を県立大学にお願いをしております。相互に見学し、連携を図りながらポテンシャルを高めていくことが大事だと感じています。 そういうことにより地元企業の力をつけていき、たとえ学校を卒業し他地域の企業に就職された人がいたとしても、子供ができ、住まいを考える時には、この自然溢れる地元に魅力を感じ地元でどんどん戻る方が増えていく、そんなふうになれば良いと思います。 最後に、以前から話題になり皆さんも認識されていると思いますが、いわゆる分娩出産をする場所がない地域は全国に何百箇所もあり、その中にしっかりとつの市も入っています。 何から始めるかは難しいですが、やはり安心して子供を産める場所ということが一つポイントにあれば、この場所で住まいをしようという人も増えてくるのかなと思います。
委員長	ありがとうございました。 委員には兵庫県立大学は大変お世話になっておまして、先ほど、協定書の締結というお話も頂きました。工学部なんかは西を向き始めてまいりました。例えば、岡山大学工学部が一般入試の後期日程を取りやめられました。そうすると、岡山大学目指したけれども、やはり兵庫県内でもあるし、県立大学にしておこうと、そういった受験生の選択の変化というのもございます。 その下地として、兵庫県立大学良いよねと、いろんな方々の御示唆を受けて、伸びてるよね、環境が良くなっているよねというようなことが口コミでもですね、伝わっております、また企業様からの評価も上がってきますと、就職も大丈夫というようなこともございます。そういう意味で本当に心強いです。ありがとうございます。その他、どんなことでも結構ですので、いかがでしょうか。 それでは、次の議題について事務局から説明願います。
事務局より、取組状況等の説明を行い、主な意見等の要旨は次のとおり	
協議・報告事項 (4) まち未来創生戦略の主な取組について (5) 国の認定を受け進める本市の創生戦略事業について	

委員長	御説明ありがとうございました。詳細な内容で分かりやすかったと思います。どんなことでも結構でございます。色んな論点があろうかと思います。どうか自由に御発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。
委員	10月にたつの市にある革製品（手袋等）を製造しているD社が信金キャピタル(株)の投資ファンドの対象に選定されました。先ほどの求人の話でもありましたが、まず目がいくのは大企業になってきますが、クリエイティブなことをやっている方を地元から発信し東京や世界に進出することがたくさんあるということを知っていただきたいと思います。金融機関が融資をするだけではなく、東京と繋いでいく、橋渡しをされるようなことが地元企業にとっては大事なかなと思いました。
委員	先ほどのお話ですが、龍野支店から信金キャピタル(株)へ繋がせていただき、資本を投入していただいたものとなります。同社は皮革業者であり、野球のグローブ等をはじめ非常に技術の高い革を製造されておられます。社長も30代と若く地場産業を盛り上げていこうと頑張っておられますので、金融機関としても応援させていただいているところです。 金融機関としての視点では、資料5ページの年齢区分別社会増減内訳の30～34歳代を見ますと、転入者はそろそろ頭打ちになりつつあると思っています。小宅地区も人口が増加していると話がありましたが、空き地が少なくなっているのが現実で、住宅分譲地の開発が止まってきたのかなと感じています。いま、分譲地の話をいただいている案件でも、ちょっと難しい土地が多い現状です。その当たりが次の課題になってくると思います。 また、地場産業は他地域に比べても非常にしっかりした地域だと思います。資金需要も設備投資を積極的にされておられますので、元気な企業が多いという印象をもっています。ただ、どの企業からも人材不足が課題だと聞いており、支店・出張所を姫路や神戸に設け人材募集をするなど工夫されている企業もあります。せっかく力がある企業が多いですので、そのような課題に対する施策があれば良いなと思います。
委員長	貴重な情報と興味深いお話ありがとうございました。続きまして、お願いします。
委員	個人のお客様を専門にする支店となりますので、法人に対する知識がなかなか無いものですから、何か御意見を差し上げることはできないかと思いますが、赴任し約1ヶ月でこちらの貴重な会議に参加をさせていただいておりますので、皆様の貴重な御意見もこれから勉強しながら、地域でお役に立てることがないか考えていきます。 個人のお客様を専門にしている支店が全国各地にございますので、そういったところの取組を伺い、たつの市のお役に立てるところがあれば積極的に御意見を今後はさせていただければなと思っております。 個人的な御意見となりますが、資料12ページに記載があるように「たつのファン」をつくるというところで非常に精力的に動いていらっしゃるなど魅力的に感じております。私も子育て世代になりますので、家庭に対して、こういったアプローチが女性には非常に助かると思います。 私は、県外出身ですが、地元愛が強い方が非常に多いです。それは、やはりこういった子供の頃に色々なイベントや、祭りに参加したといった非常に良い思い出

	出があるメンバーが地元に残っているという風な状況でもございます。私もここに来てびっくりしましたが、非常に祭りやフェスが多いなと感銘を受けておりますので、こういったところを引き続き、工夫され、続けられることによって、これからの少子高齢化の中で、地元に残る方も増えてくるのかなということを感じました。
委員長	京都の御出身ということで、たつの市も小京都でございますので、きっと気に入っていただけたと思います。 今のやりとりをお聞きいただいて何か御意見等ございましたら、お願いいたします。よろしいでしょうか。 さて、議論を進めてまいりましたが、本日は各分野各方面から御参加を頂いております。そういう意味で、主な議論が出てまいりましたが、人口減少の進行とか社会情勢の変化など、新しい時代に適応するために、官民の枠を超えた取組ってというのが重要だなというふうに改めて感じさせられました。 そういう意味で、せっかくの機会でございますので、市への提案ですとか、あるいはそれぞれの取組の中で、自分の分野ではこういったことがニュースだというようなことがございましたらぜひ、御発言をどなたからでも頂きたいと思えます。いかがでございましょうか。 例えば市としては、県が何を考えているのかっていうことは、もしかしたら知りたいところかもしれません。この機会に、城下委員、いかがでございましょうか。
委員	県もちょうど創生戦略を見直す時期に入っており、どういう風に変えていくかを検討しているところです。ただ、まさに知事選挙の真っ只中でございまして、方向性というの、どういう風にやっていくかというところだと思いますが、私も地方創生戦略には第1期の頃から色んな形で関わる部署にいましたので、自分の思うところを簡単に述べさせていただければと思います。 県の取組とか県民局の取組という中で、関わってくるのかなと思いますが、1つは、地方創生戦略がちょうど10年経ちました。第1期があって第2期の見直しがあって、次に第3期で、石破総理になられて新たに地方創生に力を入れるという、こういう時期でもあります。この10年の地方創生戦略の取組については、ちょうど折り返し地点と言いますか、ちょうどこれまでの戦略の進め方が本当に良かったのかどうなのかというのがしっかり見直される時期に当たると思えます。ここからは私が思うところですが、果たして人口を増やすことだけを本当に目標として設定して良いのかどうなのか。人口はどう考えても減っていくものですので、それが減った、増えただけで一喜一憂するというのは、やはり違うのではないのかなと思います。そうではない指標というものが、やはりこれから求められるものではないのかなと思います。 人口が減る中でも、中身を充実させていくような発想が必要ではと思います。例えば近隣では、佐用町が「縮充」という言葉を使って、絶対的に限界集落が増え、人口が減り高齢化がどんどん進み、収縮する中であっても充実させていくという、その言葉を住民の方々と共有し充実させていく行政をどうやってつくっていくかみたいなことをされています。要は、これからは取組の中身が問われる地方創生戦略になるのではないかというのが、私が思っているところでございます。 その中で、創生戦略を考えていくときに、国は色んな形で様々な成功事例等を出してきますが、それを単に真似るのではなく、たつの市ならではの取組が問わ

	れてくるのだろうなと思います。 そこで、一般的にコンサルティングがされておられます SWOT 分析です。 強みと弱みと機会と脅威、これを比べて、自分の市の強みは一体何なのか、そして弱みは何なのか。これから生まれるであろう機会はどんな機会だろう。そして、これから生まれるであろう脅威というのは、どんなものなのかということをしっかり分析し整理をしてみることで、先ほどの話でもあったような産業面での非常な強みをしっかりと認識し、それを伸ばすために何ができるかみたいな発想が生まれるのではないのかなと思います。 いま、県で言いますと、新宮町の北部に播磨科学公園都市がございます。第1工区はとりあえず、ほぼ整備が完了し産業用地も売れた状態ですが、ただやはり夜間人口が伸びないという大きな課題があり、同じ課題をたつの市とも共有させていただいております。これから新たにどういう風にやっていくかということをもう一度考えてみようというスタンスに立とうとしています。まだ効果が生まれてないけれども、可能性として残っている所をどう生かしていくかというような発想。先ほど言った SWOT 分析ですと、機会であり、それをどう生かしていくかという発想も欲しいなと思います。 県民局で言いますと、やはり各市町と連携をしっかりつくっていただけるような取組に力を入れていきたいなと思っております。 西播磨地域は様々な、魅力と可能性のある地域ばかりですので、自然で言えば山と海と川ということで、もう全てのものが揃っている西播磨でもありますので、この西播磨が1つにまとまることを県民局としては、色々取り組ませていただいて、西播磨全体の力を上げていくような取組を進めていきたいと考えております。
委員長	貴重なお話ありがとうございます。石破総理が地方出身ということもあって、地方創生戦略をより強く謳われる。特に防災庁を設置したいというような夢を語られ、このようなことは、たつの市も敏感であるべきだというふうに思います。 やっぱり人口減少下において、何をしてもうまくいくはずがないというような発想、それは違う。SWOT 分析をしっかりして進むべき道を、それで生み出していく。そういったことが大切だと思います。 そういう意味でも今日御説明頂きました国の認定を受け進める、たつの市の創生戦略事業、こういったことを御紹介頂きましたけれども、やはりこれが我々の進む道ということで、分析に分析を重ねて、国からも認められている。こういったことがやはり大事なことだという風に改めて思った次第であります。 ありがとうございます。
委員	今のお話を伺い、なるほどと思いました。どっちみち減っていく人口だけを目標に設定するのかについてのお話がありましたが、会社の社長の立場での話になりますけれども、当社の主たるお客様は畳店です。畳店に機械をいれる。これまた、和室の減少、それから畳店の減少、市場規模の減少、全てこう下がっている世界です。通常は目標値と言いますと、右肩上がりの目標を設定していくのが当たり前なのですが、当社の主たる1つのマーケットも下がっている。10年間で畳店の数もマーケットサイズも3割減少している。10年で70%、20年で50%、30年で30%となり、それをいかに食い止めるということが当然ターゲットとなるし、いま8,000件程度あると言われている畳店がどう減っていくのか。とにかく当社の装置を使った畳店を800件まずつくろう。シェアで言うと

	10%、でも、その10%のシェアを持つ畳店が将来必要になるであろう需要の半分以上は無くなる。その通りいけるかどうかまだ分かりませんが、そういう明確なビジョンをつくってやっています。 この5万3,000人という人口目標についても、年が経てば経つほど少子高齢化ということで、今の人口の4割が65歳以上だとか言われていますが、36年後の5万3,000人の大半が高齢者という風なことになってしまったら、これはもう面白くないということでしょうから、この人口目標になった暁と言いますか、これぐらいの若い人が支える人がいて、という様なことも必要ではないのかなと思います。下がっていく目標を立てることの難しさというものもあると思ひまして、そこをどうしたら良いかということまで申し上げられませんが、例えば当社では、このような目標をつくってやっていますよということを参考でお伝えいたしました。
委員長	興味深いお話ありがとうございます。本日のこの部屋を御案内頂いたときに、この部屋は災害対策本部兼大会議室ということでございまして、どんな、おどろおどろしい部屋かというように思っていました。 実際参りまして、災害対策本部と言いますと大体、大きな機械が置いてあって通信機器があって、非常に冷たい感じの機器が並ぶわけですが、この部屋いかがでしょうか。この和のテイストが、これが心を落ちつかせますね。 実は裏に回れば本格的な機材があって、スクリーンも大きく、本当に最先端の危機対応ができるというふうに伺いました。これからの時代はこういうものなのでしょうね。 少子高齢化である。設備も老朽化する運命にある。しかしながら、今ある環境でできる素晴らしいものを生み出せるということでもあると思います。 そういうことで、SWOT分析というものの活用といったようなことを先ほど御示唆くださったのかなと思いますけれども、働き手として私悪くないと思うのですね。このような、すばらしい環境で働くというようなことっていうのは、これからもチャンスがある。 そういう意味で、まだまだ働く環境を良くしていくという伸び代というのを感じますが、何か御意見ございますか
委員	会社の中での課題もいくつもございまして、まさに行政と同じような課題もございまして。仕事がどんどんグローバル化していくなかで、折角この地で勤務していただいても、直ぐに日本全国どこでも働いてもらうというような会社が増えているのかなと思います。 一方で、この地に根付いて働きたいという需要もあると思いますので、地域を限定した働き方を供給することも考えても良いのかなと思います。このようなことが労働者や会社の課題なのかなと思っています。 また、県外から就職し、一人暮らしをしている若い方たちもおられ、子育て世代よりも、もう少し若い方（20代）の私生活のサポートとなる施策があっても良いかなと思いました。
委員長	大変参考になります。ありがとうございました。 ここまでのやりとりで何か付け加えたいこととか、御意見、御感想ございましたらどうか御自由にお問い合わせいたします。もう大分時間が迫っております。 いかがでございましょうか。

委員	資料の 7 ページを拝見すると、過疎地域に指定された新宮地域には高齢化率が 40 % 代の地域もございます。御津地域も 37.5 % と高く、次の過疎地域になるのかと危惧しています。 若者を地元に残したいという時に、勤務する場所に住みたいというのがまず一番の条件になると思います。網干地区に住む方に御津地域に住みたいかと聞くと、住みたいと言われる方はおられませんでした。要因として考えているのは、まず一つに公共交通が不便であることだと思います。路線バス（大浦線）が休止となり、新たにコミュニティバス（竜野駅～大浦線）に改編されましたが、御津地区や河内地区の住民は生活圏が以東（網干、大津等）であります。姫路、太子、たつのの広域で協議し、山陽電鉄網干駅、JR 網干駅に行くことができる公共交通について議論をお願いしたいと思います。 平成 27 年に 14,000 人ほどいた老人クラブの会員も、今は 8,500 人程度と減少しています。今後、老人が生活していくためには、何らかの交通手段がないといけないと思います。
委員長	ありがとうございます。委員からのお話、これはもう去年も一昨年も出てきておりまして、今日、詳しくに教えてくださったというふうに承りました。時間がかかりますけれども、しっかりと考えていくべき課題だと思います。 ありがとうございます。本当に時間がなくなってきました。そのほか、御意見御質問等ございますでしょうか。 それでは本日の協議事項につきましては以上でございます。 議事進行に御協力頂きまして本当にありがとうございました。
副委員長	本日はお忙しい中御出席頂きまして、御意見、御提言ありがとうございました。 全国的に少子高齢化ということで、先日の新聞でも 2050 年頃には、結婚しない人が増え、夫婦 2 人暮らしの単身世帯が約半数となるような厳しい情報も出ておりました。 たつの市におかれましても、より一層、地方創生の推進に努めていただき、引き続き皆さま方には、官民一体でそれぞれの立場で御支援をお願いしたいなと思います。 これを持ちまして閉会とさせていただきます。ありがとうございました。